

小宮山南梁 こみやまのりやま 舊水戸藩儒。文政十一年常陸國水戸生れ、明治十九年十一月二十四日歿（八二九一六）。講学は、宇内龍、通稱釜介。別號半丁庵、南梁居士、古樵、荒谷。藩儒潤野秋齋の學ぶ。藩賢弘道館教授となり、「國史志表」の編修を命ぜられた。戊辰の亂の際も朋黨の禍に罹り幽閉。解けのち大藏省出仕、その後東京府の史職に就く。江戸制度の傳通するを以て「地理志」編纂の總修に當り、「東京城運置考」、「政治上訪古録」を著して、村知事（楠本止隆）より獻進、天覽に供したといふ。明治二十一年罷官後、神宮司廳所管「古事類苑」纂修に従事。帝國大學史料編纂所員にも加はり、著述千餘多敷遺した。

刊本の「近世豪傑譚」（第貳巻・明治二十五年一月、千七百東京堂）、
 「徳川太平記」全十一編（のち上下二巻合綴版・明治二十年二月十六日博文館）、
 「洋學大家列傳」（明治三十年三月十九日博文館）少年「養書」一冊。

